

大学院生が主体のイベントで運営を担当した岡さん（長谷川研究室）と坂本さん（若宮研究室）。イベントの様子や感じたこと、さらに化学研究所での日々の研究活動についても紹介します。



01

環境物質化学研究系 分子環境解析化学(長谷川研究室)
博士後期課程1年 岡 昂徹さん



02

複合基盤化学研究系 分子集合解析(若宮研究室)
修士課程2年 坂本 知優さん

第19回有機デバイス・物性院生研究会…幹事の経験から

応用物理学会の学生主体研究会（スチューデントチャプター）が主催する「第19回 有機デバイス・物性院生研究会」が、化学研究所で3日間（2024年10月1日-3日）にわたり開催されました。全国の各大学から計73名の学生（全22研究室）が参加し、18件の口頭発表、50件のポスター発表を含む多様な講演のほか、分子科学研究所の解良聡 教授、当研究所の若宮淳志 教授、京都大学大学院工学研究科 高分子化学専攻 山本俊介 准教授によるチュートリアル講演が行われました。



先輩研究者の先生方によるご講演には、今後の研究者人生への貴重なアドバイスが含まれており、高いモチベーションを持って研究会を終えることができました。また、学生でありながら社会人としての一面を持つ大学院生ならではの悩みを共有できる、貴重な人間関係を築く機会にも恵まれました。



化研で広がる学友の輪

厳しい暑さの中、2024年8月5日から6日にかけて、IRCCS-GTR異分野融合ワークショップを名古屋大学の学生と共に開催しました。初日の研究発表会では、全ての



学生が口頭およびポスターの両方のセッションで発表を行いました。異なる研究分野の学生にも多様な手段や技術を用いて自らの研究を伝える経験を得ることができ、普段の学会発表以上に柔軟な対応力を培うことができました。大盛況のうちに幕を閉じた懇親会では、普段は聞けない先生方のよもやま話に花が咲き、二次会でも話は盛り上がるばかりでした。2日目には研究室見学を行い、化研の若宮研究室で

実際に使用されている装置を紹介しました。お互いに普段の実験の様子を想像し、リアルな日常に踏み込んだディスカッションができました。



普段の研究風景

赤外光やX線を使って“分子の集まり方”を調べています。



普段の研究風景

ペロブスカイト太陽電池の高性能化に向けた研究をしています。

